



遠藤 勝裕
日本学生支援機構
理事長



私は日銀勤務30年のうち、15年を地方で過ごし、勤務地は東京を中心に札幌、青森、名古屋、神戸、北九州と6都市に及んでいる。その中では、青森と神戸が大災害に遭遇したこともあり、とりわけ思い出深い。1991年(平成3)年9月末、瞬間最大風速60メートル近い烈風を伴い台風19号が津軽地方を襲った。数十万本ものリンゴの木が倒れ、収穫直前のリン

ゴは壊滅状態となった。このとき、リンゴ農家救済のため奔走したのが青森在住の事業所、マスコミ等の責任者の集団、「青晴会(じょっぱれ会)」の面々であった。その活動は地元金融機関等も巻き込み全国規模で広がったため、青晴会のリーダーであった私は、その年に活躍した金融人に与えられる「ニッキン賞」(日本金融通信社主催)に選ばれた。写真①は授賞式の様子。青森銀行若山頭

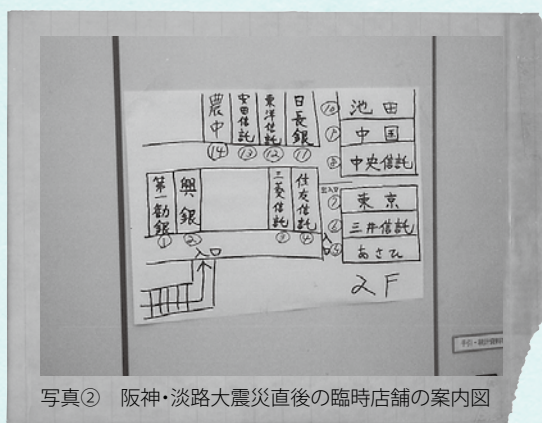


写真① 「ニッキン賞」受賞式の様子

取、みちのく銀行大道寺頭取(いずれも当時)にも同席いただいた。青晴会の仲間たちとの集まりは「東京青晴会」と称し、今なお続いている。

1995年(平成7年)1月17日未明、阪神地方を襲った大震災の折は日銀神戸支店長の職にあった。被災地の金融機能・秩序維持のため最前線で働いたが、とりわけ苦労したのが、店舗を失った金融機関のため臨時店舗(窓口)を日銀内に設けることであった。写真②はその折の案内図。被災直後ということもあり、手書きのよれた線が生々しい。苦労を共にした金融機関の支店長仲間はまさに“震友”であるが、親睦会の名は「神友会」。20年の節目である昨年1月には、神戸に集い犠牲者の冥福を祈った。なお、写真③は支店長席の様子。震度7の縦揺れに続き襲った横揺れのため机上の分厚いガラス板が座席を覆い、そこにテレビが鎮座(人物は

青晴会と神友会



写真② 阪神・淡路大震災直後の臨時店舗の案内図



写真③ 震災後の支店長席の様子

当時の米田次長)。執務中であれば“即死”を示唆していた。その後何か困難に直面した折などにこれを取り出し、「生かされていることのありがたさ」をかみしめている。